

シンポジウム 2（合同）：日本サイコオンコロジー学会

在宅医療におけるがん患者・家族の精神心理的ケア

演題名	「在宅医療におけるがん患者・家族の精神心理的ケア」 日常ケアの中にこころのサポートを
-----	---

概要

訪問看護に携わって 13 年。ホスピスでなくてもホスピスケアを提供できるような地域を目指して様々な地域の医療者と連携を取りつつ在宅ケアに従事している。

地域医療に関わり、自宅で過ごす患者や家族を見ていると、彼らの隠れた力を見せられ驚きと感動の連続である。しかしその力を見出しどう発揮するかは、やはり私たち関わる者の影響も少なからずあると思っている。

私たち看護師は患者の状態と家族のケアの力、生活環境を総合的にアセスメントしつつ訪問頻度や看護の内容を検討している。患者や家族が持ち得る力を信じること、最大限に出せること、そのために待つこともある。待つことが苦しいこともある。

在宅療養者への看護の関わりの多くは日常ケア。がんの療養者には病状の時期により適切な緩和ケアが提供できるように、医師や薬剤師らと相談しつつ介入していくが、何に苦しみ、何を望んでいるのかは人それぞれ。彼らが抱える苦痛を知るのは、会話から。日常ケアの何気ない会話の中に実に多くのメッセージが込められている。玄関を開けた時にその人がどのような生活をしていたのかを感じ、入浴介助をしながらその人の日常生活を知り、清拭やマッサージをしてその人にとって心地いいと思えることを見つけ出す。心地よくなったときにほっと心の奥の言葉が溢れ出すことがある。何もできないと思っている家族も、一緒にケアをして心地よくなった患者の顔を見て、家族自身が癒されてくることもある。時には看護が入る時に家族の休息がとれるような配慮を行う。家族もまた様々な苦痛・苦悩を抱えており、それを知るのも会話によってである。日常ケアは身体的な苦痛を癒すと共に会話のきっかけをたくさん引き出してくれる。会話によって見出された苦痛や苦悩もケアによってまた癒される。日常ケアと心のサポートは看護にとって切り離せない大切なケアとなっている。